



第70号
校長 久高利美子

第四十二回 卒業式

三月九日(土) 第四十二回の卒業式を行いました。九十四名が学び舎を巣立っていきました。引き締まった雰囲気の中で行われた卒業式、卒業生一人一人のたくましい成長の姿を見ることができました。

答辞 卒業生代表 新垣みずほ

冬の寒さもようやく和らぎ、穏やかな春の兆しが見られるようになりました。このような良き日に、この会場を彩る花々と、入場の時の温かい拍手に迎えられ、私たち四十二期卒業生九十四名を代表して答辞を述べることができ、ことを大変うれしく思います。

期待と不安を胸に、東江中学校の門を初めてくぐったときから、早くも三年が経ち、卒業のときを迎えました。めまぐるしく過ぎていった東江中学校での日々はとても充実したものでした。運動会や不転祭、修学旅行などの行事はもちろん学校生活の当たり前の風景すべてが大切な思い出です。

一年生の頃の私たちは、とにかく落ち着きがなく、授業中も休み時間も叱られてばかりでした。そんな私たちも二年生になり、中堅学年として三年生を支え、一年生を指導する立

場になったとき、先輩方の偉大さを感じ、大人になろうと努力しました。そんな二年生での思い出は、やはり修学旅行です。初めて訪れた東大寺で鹿に出迎えられ、その威圧感のある大きさに驚いたり、世界遺産である金閣寺と普賢見ることのない雪とが合わさった幻想的な風景に心を打たれました。そして、何より最終日の学年レクでは、まさに「意外性発見」というように友だちの新たな側面を見ることができました。

三年生になってからは、時の流れがあっという間で、全ての行事で中心となって動いたはずなのに、気が付けば二年生にバトンを渡していました。そして教室のそこそこには、「一二年の頃は打って変わって、真面目に勉強に取り組んでいる、受験生となったみんながいて、問題が解けたと言喜ぶ姿はとても印象的でした。

私たちがこのように成長できたのも、今まで支えてくださった保護者のみなさんや先生方のお陰です。ときには、反抗的な態度をとって困らせることもありましたが、そんな私たちを諦めて見限ったりせず、厳しく叱り、優しく指導してくれた有り難さは、今は、心で理解することができました。みなさんの支えなしには、私たちの学校生活は成り立たなかったことでしょう。今日の私たちの姿が少しでも恩返しになっていければと思います。本当にありがとうございました。

そして、後輩のみなさん。みなさんにはこの言葉を贈ります。「あなたの人生は限られている。だから、誰かの人生を生きて無駄にはいけない。一番大切な

は、心の声や直感に従う勇気を持つこと。欲張りであれ。愚か者であれ。」これは、「Proton」を初めて世に送り出したスティーブ・ジョブズが若者に向けて贈った言葉です。中学の三年間は、後輩として先輩の背中を追い、後輩から「先輩」と呼ばれるようになり、後輩に後を譲り、自分は見送られていく。三年間とはそんなものです。その中で、小さなことに病んで足踏みするより、自分の心の向く方へ一歩でも歩みを進めてください。目標は人それぞれ違い、それを公言している人、胸の内に秘めている人もいます。でも、そこに目標がある以上、先ほどのジョブズという言葉借りれば、貪欲なまで夢を追い続け「お前は無理」と笑われても日々の努力を積み続けることが今の自分を育てることになると思います。頑張ってください。そして、卒業生のみなさん。私たちは、自分で進路選択をし、これからはその夢を追い、二十代の自分を築き、三十代、四十代の自分の道を切り開いていくんだと思います。いつかまた、そんなみんなと笑顔で再会できればと思います。

最後になりましたが、式場にお集まりの皆様のご健康とご多幸、そして母校の限りない発展を祈念し、卒業生を代表するあいさついたします。

